Ⅳ　平成 15 年の集計結果

1　がん死亡数

（1）部位別

がんが原死因であった死亡について部位別に死亡数をみると，男では肺が最も多く，次いで肝臓，胃の順に多かった。女では胃が最も多く，次いで肺，肝臓の順に多かった。

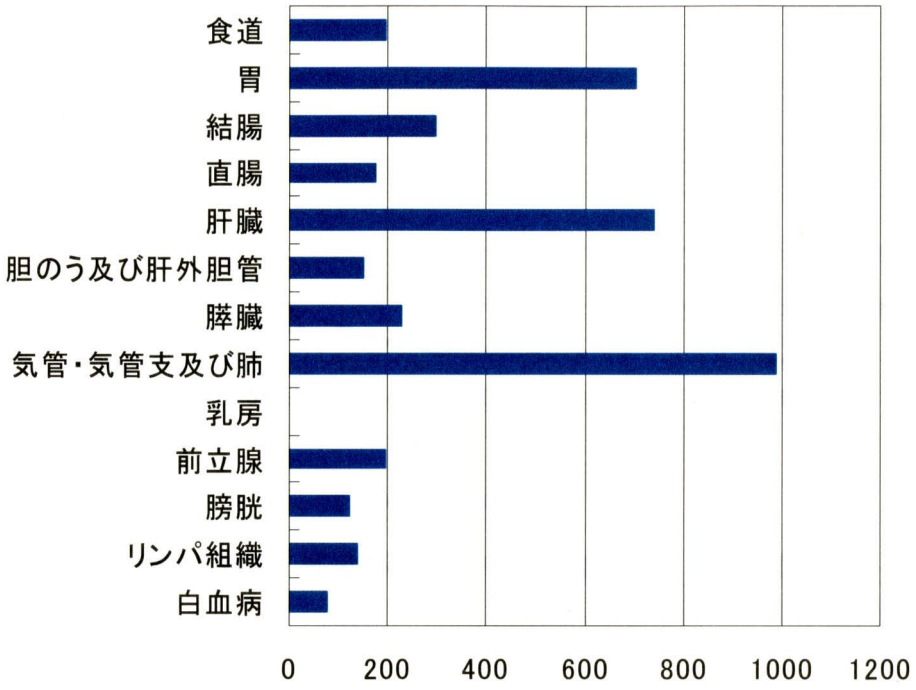


図４－１　部位別にみたがん死亡数（男，平成 15 年）

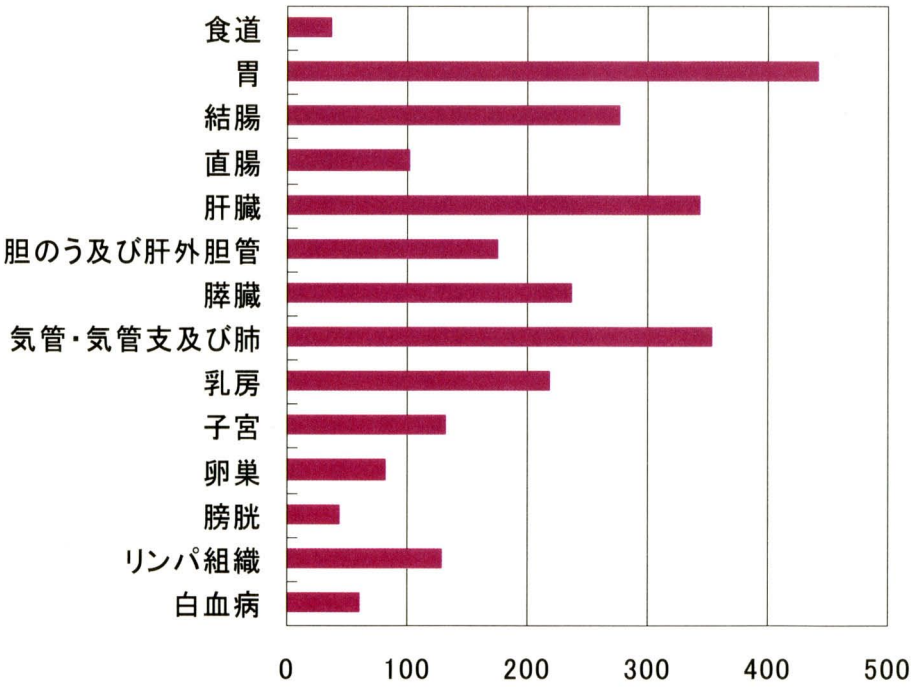


図４－２　部位別にみたがん死亡数（女，平成 15 年）

（2）全国との比較

全国を基準とする標準化死亡比は，全部位で男が 0.99，女が 0.97 であった。死亡数の多い部位のうち，男女とも肝臓の標準化死亡比が高かった。

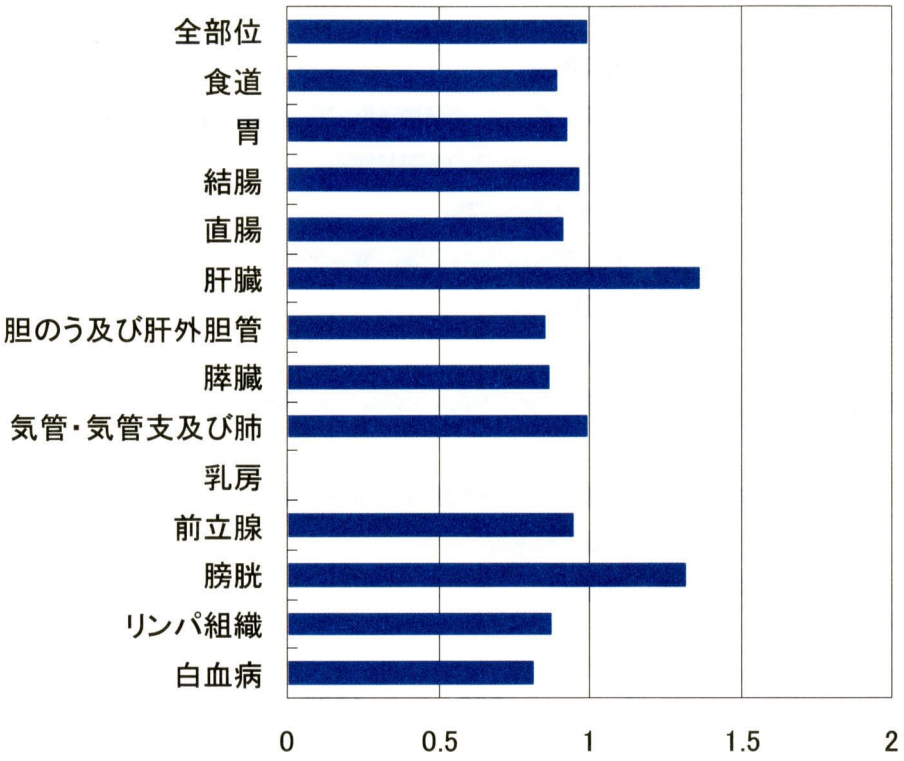


図４－３　部位別にみた標準化死亡比（男，全国を基準，平成 15 年）

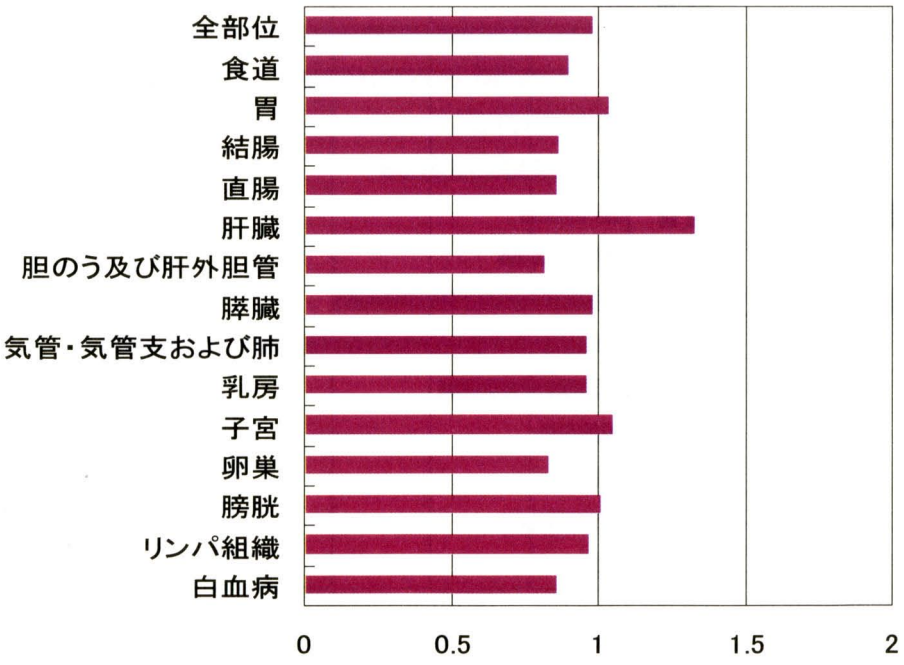


図４－４　部位別にみた標準化死亡比（女，全国を基準，平成 15 年）

２　がん罹患数

（１）部位別

がん罹患数を部位別にみると，男では胃が最も多く，次いで肺，前立腺の順に多かった。女では乳房が最も多く，次いで胃，結腸の順に多かった（Ⅵ　付表の平成 15 年の表１－Ａ参照）。

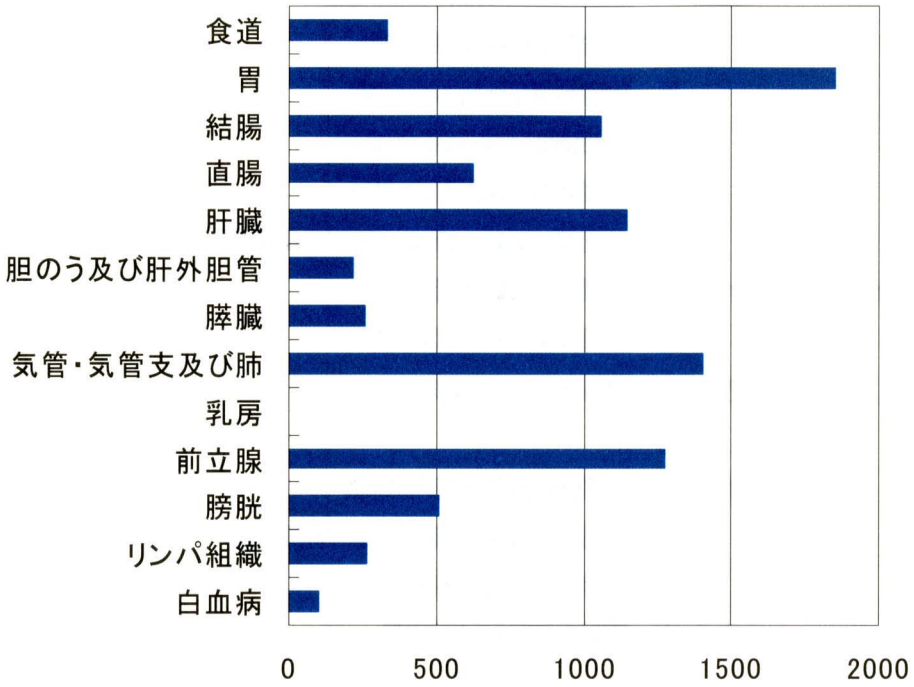


図４－５　部位別にみたがん罹患数（男，平成 15 年）

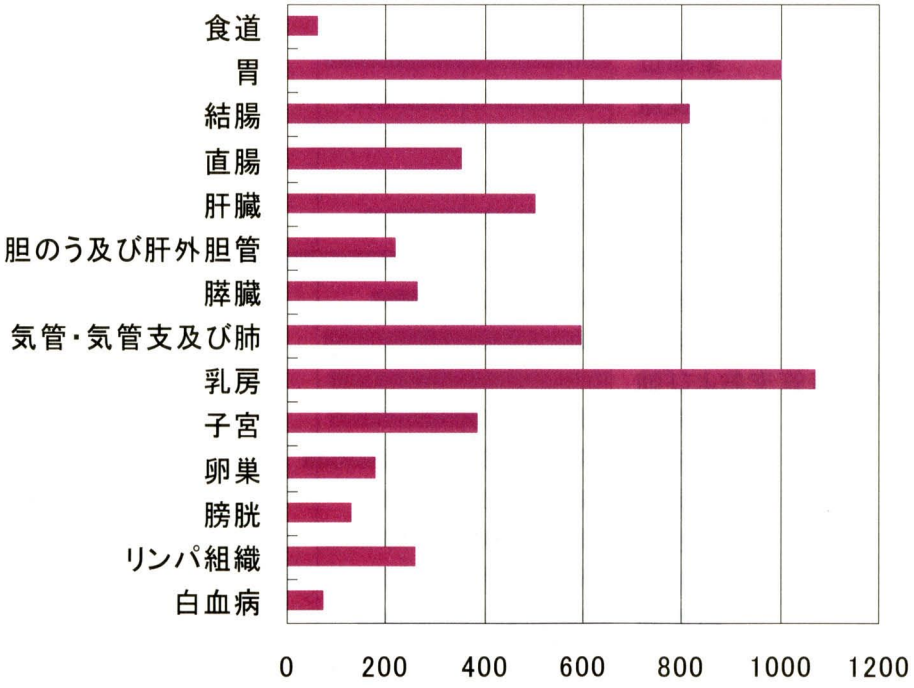


図４－６　部位別にみたがん罹患数（女，平成 15 年）

（２）年齢階級別

性別年齢階級別にがん罹患数をみると，40～44 歳，45～49 歳の年齢階級などでは男より女の罹患数が多く，それ以上の年齢階級では女より男の罹患数が約２倍多かった（Ⅵ　付表の平成 15 年の表２参照）。

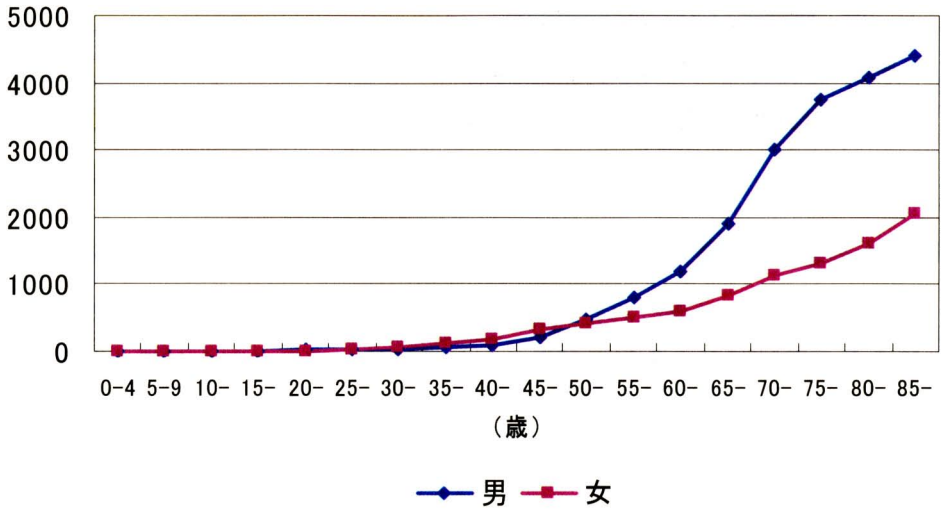


図４－７　年齢階級別にみたがん罹患数（平成 15 年）

（３）発見経緯

部位別に発見経緯をみると不明者の割合が高かったが，判明者中の分布をみると子宮，大腸，乳房などで，がん検診の割合が高かった。ただ，判明者の割合が低いので，結果の解釈には注意が必要である（Ⅵ　付表の平成 15 年の表３参照）。

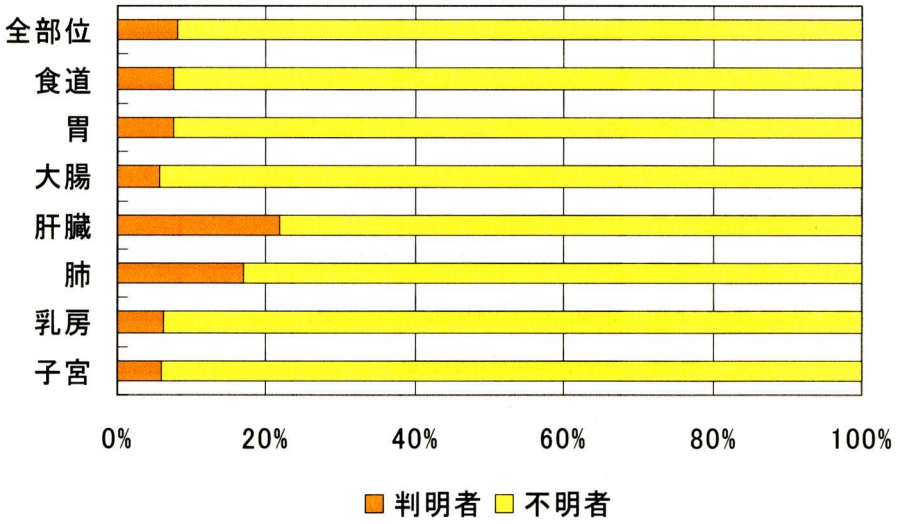


図４－８　部位別にみた発見経緯判明者の割合（平成 15 年）

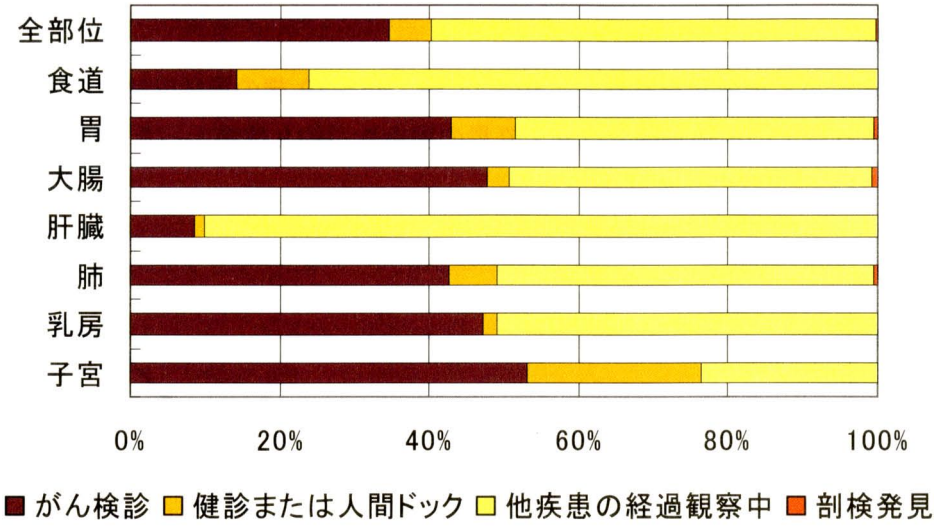


図４－９　部位別にみた発見経緯（判明者中の分布，平成 15 年）

**腫瘍登録事業の資料が占める割合が高く，発見経緯判明者の割合が低くなっており，結果の解釈には注意が必要である**

（４）臨床進行度

部位別に臨床進行度をみると全体に不明者の割合が高かったが，肝臓や膵臓では判明者の割合が比較的高かった。判明者中の分布をみると，限局の割合が肝臓で高く，膵臓で低いという対照的な結果を示した（Ⅵ　付表の平成 15 年の表４参照）。

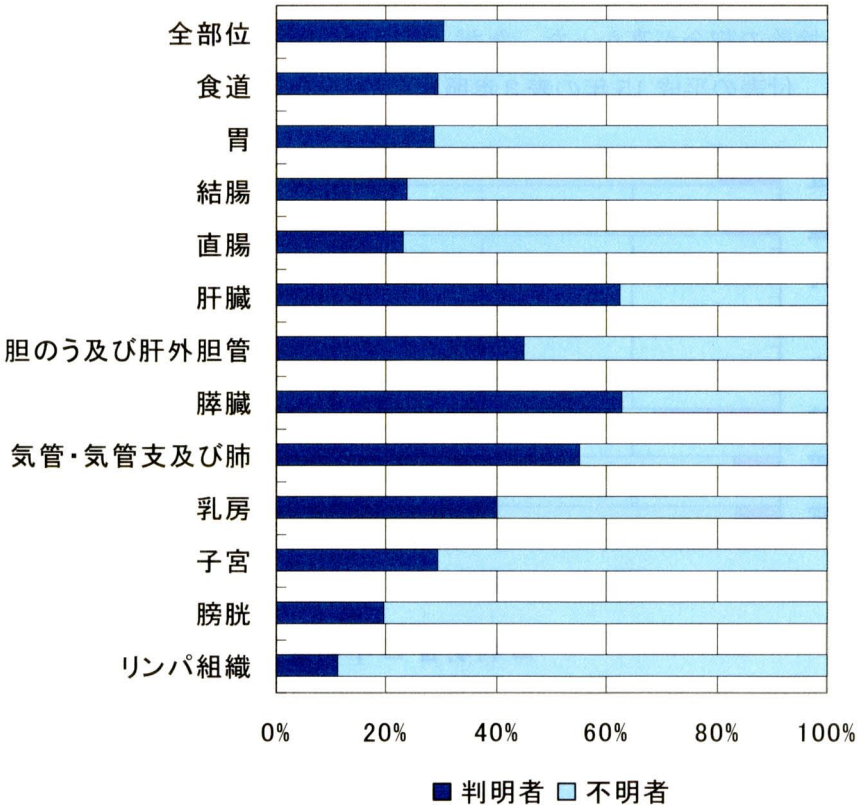


図４－10　部位別にみた臨床進行度判明者の割合（平成 15 年）

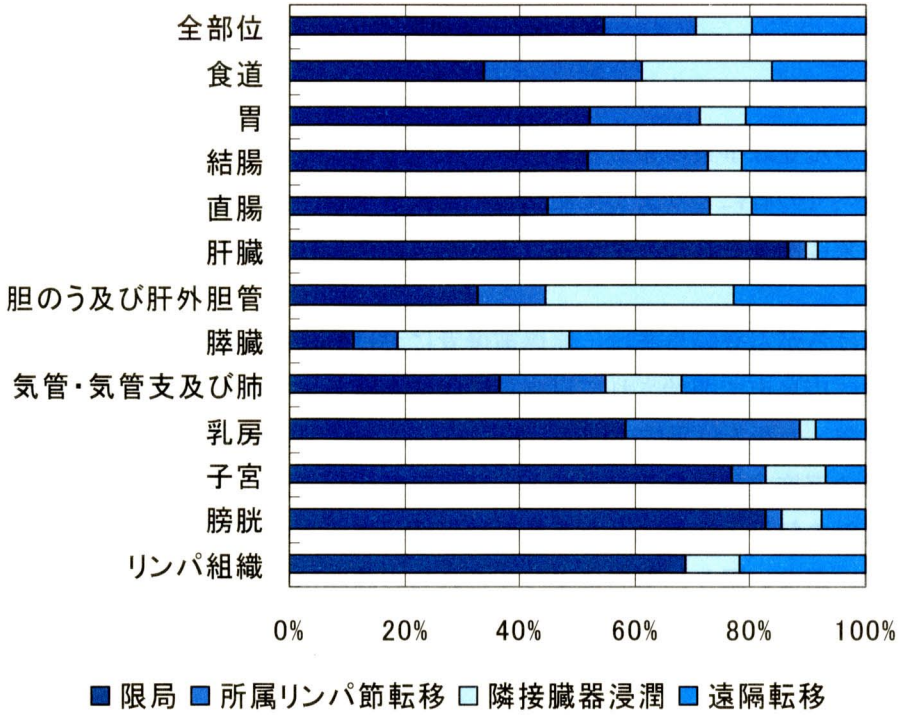


図４－11　部位別にみた臨床進行度（判明者中の分布，平成 15 年）

**腫瘍登録事業の資料が占める割合が高く，臨床進行度判明者の割合が低くなっており，結果の解釈には注意が必要である**

（５）受療割合

受療割合を部位別にみたが，肝臓，膵臓，肺で特異療法なしまたは治療方法不明の者の割合が50%前後で比較的低かった（VI　付表の平成 15 年の表５参照）。

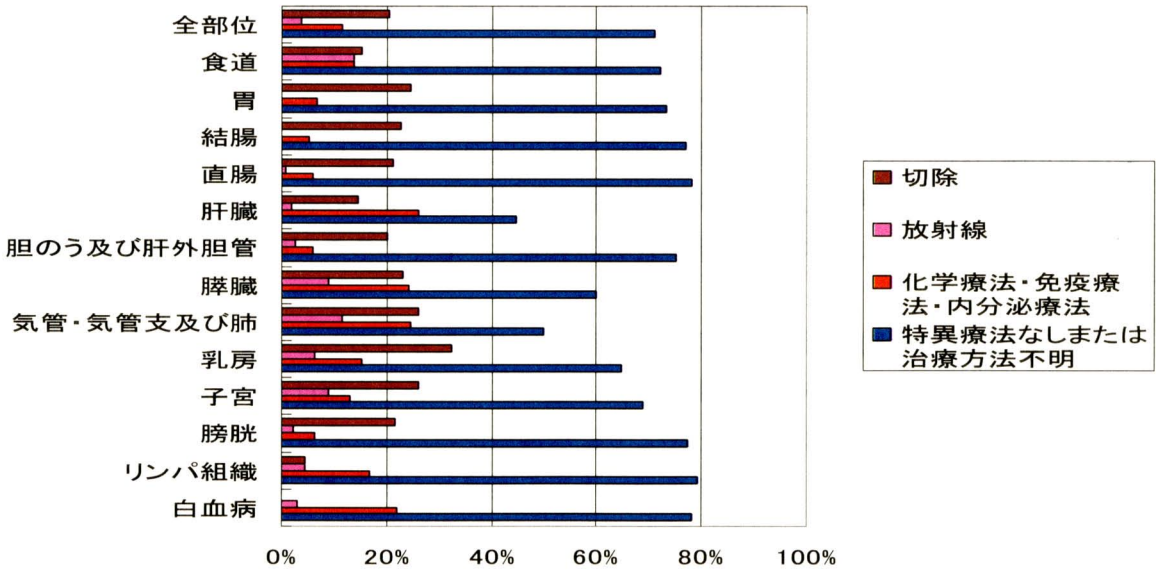


図４－12　部位別にみた受療割合（平成 15 年）

**腫瘍登録事業の資料が占める割合が高く，治療方法不明の割合が高くなっており，結果の解釈には注意が必要である**